



かいつぶい

2017年10月19日

長浜北星高校 人権係

湖北地区共同鑑賞

11月8日（水）5～6限に湖北地区共同鑑賞を行います。今年は映画鑑賞で、ドリアン助川氏の原作を河瀬直美監督が映画化した作品『あん』を観ます。

〈ストーリー〉

縁あってどら焼き屋「どら春」の雇われ店長として単調な日々をこなしていた千太郎（永瀬正敏）。そのお店の常連客である中学生のワカナ（内田伽羅）。

ある日、「どら春」の求人募集の張り紙を見て、そこで働くことを懇願する一人の老女、徳江（樹木希林）が現れ、どら焼きの粒あん作りを任せすることに。徳江の作った粒あんはあまりにも美味しく、みるみるうちに店は繁盛。しかし心ない噂が、彼らの運命を大きく変えていく…。

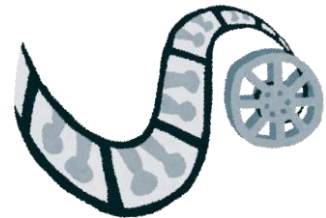
この映画の中にはハンセン病が出てきます。皆さんは、ハンセン病のことは知っていますか？ハンセン病とはどのような病気で、その患者や元患者がこの日本ではどのようなあつかいを受けてきたのか。今回の映画を通して学んでほしいと思います。そして、人にはそれぞれ大切な人生があります。あなたにとって「人が生きる意味」とは何か、考えるきっかけにしてほしいと思います。

〔共同鑑賞前後の予定〕

事前学習：11月2日（木）6限 LHR

共同鑑賞：11月8日（水）5～6限

事後学習：11月9日（木）1限 LHR



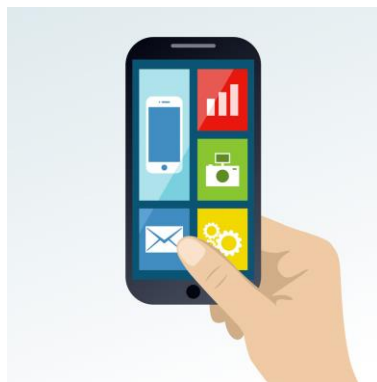
ことだま
言霊

言葉に宿っている不思議な靈威。古代、その力が働いて言葉通りの事象がもたらされると信じられた。〈広辞苑より〉

昔の人は言葉には不思議な力が宿っていると考えていたのですね。

現在でも言葉には大きな力があると思います。誰にでも精神的にしんどい時があると思いますが、そんな時にかげられる気遣いの言葉は本当にありがたいですね。しんどい気持ちがあたかも雪が解けるがごとく消えていくように感じます。そんな時に、逆に心ない言葉を受けるとしんどさが何倍にもなり、本当に落ち込んでしまいます。言葉には人を元気づけたり、逆におとしめたりする

力があるのです。昨今では人と面と向かって話す以外に、スマートフォンのタッチパネルで言葉を打ち込むという事が多いようです。面と向かっていない分、気楽に、ある意味無責任に言葉を発信するケースがあると思います。自分にその気がなくても伝達の行き違いから人間関係を悪くしたり、人の心を傷つけたりする事があるかもしれません。便利な器具が人の心を傷つけていないか、よく考えながら使ってほしいと思います。スマートフォンはとても便利な文明の利器です。友達との親交を深めたり、悩んでいる人の力になってあげられるように使って欲しいと思います。



かいつぶり

2017年11月 1日
長浜北星高校 人権係

心と心の通い合いを

最近、車の危険運転に絡むトラブルや事故・犯罪について色々な所で報道されています。それを見て次のような事を思います。

車を運転していると、よく細い道にさしかかります。そんな時に限って向こうから対向車がやってきて鉢合わせしてしまいます。「じゃまだ！こっちが先に通るからのいていろ！」とばかりに強引に通り返る・・・これでは相手との心の通い合いはおろか敵意さえ生じかねません。こんな時、車をちょっと止めてどうぞとばかりに手で合図を送る。ちょっと待ったくらいで到着時間はそんなに変わりません。相手は通り過ぎざま「ありがとう！」と合図を返して走り過ぎる。こんな些細な事でも、気持ちがほっとして、心の中に爽やかなものが残ります。相手を尊重する心の通い合いがあったからです。

みんなの場合、通学風景を思い浮かべてみてください。歩いている時でもそうですが、特に自転車に乗っている時、道一杯に広がって走ったりしていませんか？道路が自分たちだけのものであればそれでいいかもしれませんが、実際はそうではありません。他の通行者（車、自転車、歩行者）に心を配る。そんな心のゆとりを持ってほしいと思います。「〇〇ファースト」という言葉がよく聞かれます。しかし、ひとつ間違えば我を通す「自分ファースト」となる危険性があると思います。相手の立場も尊重する。そんな気持ちを大切にしてください。



ハンセン病とは

11月8日（水）に湖北地区共同鑑賞で映画「あん」の鑑賞をします。そこに出てくるハンセン病について簡単に説明します。

ハンセン病は「らい菌」によって引き起こされる慢性の細菌感染症ですが、ノルウェーのアルマウエル・ハンセン医師がそれを発見するまでは、原因の分からない病気でした。主に末梢神経が麻痺したり、顔や手足といった体の末端に病変が現れることから恐れられてきました。しかし、感染による発症はゆるやかで感染力は極めて弱いものです。昔は栄養状態や生活環境も悪く、病気に対する抵抗力の少ない人が多かったと思います。そんな中で、家族間のように近い人の間で感染したと考えられます。感染しても抵抗力のある人は発症しないケースもあります。現在では治療方法も確立されています。また、新たな発症者はほとんどいません。しかし、ハンセン病患者や元患者は人権を侵害され、日本では1996年まで「らい予防法」により隔離されてきました。

（更に詳しいことについては事前LHRで学びます。）